

Nyonyum 15号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



活動近況報告～現地の先生の新しい「挑戦」に寄り添う

配属先のスパイリエン高校では、6月中旬に前期末の筆記試験が行われ、成績表*1が生徒に渡されました。

現在、主たる活動の体育の授業では、教科主任の先生と、チームティーチングで授業を行っています。先生の新しい挑戦に寄り添うスタンスを大切にしながら、お互いの指導力の向上、そして何より生徒の笑顔や意欲を引き出し充実感や達成感を味わうことのできる授業を目指しています。前期に行った2つの種目の授業の様子を紹介します。

器械運動「鉄棒」(10年生・高校1年生)

昨年11月に、現地 NGO『ハード・オブ・ゴールド』の支援を受け、「鉄棒」が設置されました。そして、2～3月に、多くの生徒・先生にとって、人生初めての鉄棒の授業を行いました。初めて見るモノへの好奇心と恐怖心が混じりあいながらの授業。4時間の授業で、振り子、懸垂、腕支持などの練習から、前回りや逆上がりにも挑戦しました。恐怖心を克服できず、前回りに挑戦できなかった女子生徒が多数…今後の課題となりました。



ダンス「エアロビ」(10年生・高校1年生)

1時間に3つのステップを学び、その後グループ学習で教え合うという授業スタイル。生徒の多くは踊ることが大好き。しかしエアロビでは、4拍子のリズムの取り方に四苦八苦。計4時間で、合計12のステップを習得し、試験を行いました。授業の最後に行う BTS や現地の曲に合わせてのエアロビは、バラバラだけど、大盛り上がり！とにかく、生徒の前では、笑顔いっぱい踊る姿を見せることを心掛けました。そんな姿を、現地の先生も見て…

生徒の輪の中に入り教える先生☺



「エアロビ」は、現地の先生の苦手種目の一つ。最初は見ていただけだった先生も、次第に生徒の円の中に入り、見本を見せるようになりました！国に関わらず、自分の殻を破ろうとすることは簡単な事ではありません。ちょっとした嬉しい一コマでした!!

*1) 体育は、授業の出席状況及び実技試験（昨年度の僕の実践を参考に、現地の先生方も試験的に導入）の結果に基づいて、評価を算出



『日本語教室』近況報告～笑顔あふれる教室に！

今年の1月に開設した『日本語教室』（第11号で紹介）も、約半年が経過しました。1回約60分、週2回のペースで、これまで計30回実施をしてきました。現在の在籍生徒は、中学2年生～高校1年生、そして保護者1名の計10人。当初は、文字学習と会話練習の2部構成で実施をしていましたが、文字学習の時間を減らし、とにかく会話の練習、アウトプットをする機会を多くしています。ときには、日本の高校生とのオンライン交流、日本食試食会、特別ゲストを招いての音楽教室などの特別授業も行っています。生徒との関係性も構築され、とても明るく、笑顔が絶えない教室になっています。開始時間に、いつも全員が揃わないというのが、唯一の課題です☹



日本の所属校・札幌藻岩高校の生徒とのオンライン交流。初めての人前での日本語による自己紹介。ものすごく緊張していましたが、日本の生徒たちが一生懸命聞いてくれたおかげで、自信を深めることができました。自己紹介の後は、英語とスマホを駆使しながら、お互いの趣味や休みの過ごし方、学校の様子などについて情報交換をし、楽しく交流をしていました！



特別ゲスト・三ちゃんをお呼びしての『カエルの歌』の輪唱。もちろん、自己紹介もセットです。指揮の仕方、紙鍵盤での指の使い方なども教えて頂き、興味津々（生徒の多くは、音楽の授業の経験がありません）。約1時間の練習で、見事輪唱が完成～♪



『SEAGames』(第14号で紹介)では、日本ではあまり馴染みのない東南アジアが発祥あるいは東南アジアで流行している競技が数多く行われていました。競技の面白さや魅力に触れながらも、その競技の成り立ちや流行を知ること、東南アジアの国々の歴史や文化を知る機会ともなりました。実際に観戦することができた6つの競技を紹介します。

チンロン (発祥:ミャンマー、5〜7世紀頃)

ビルマ語で「チン」=籠(カゴ)、「ロン」=球体を意味する。1チーム6名の選手が、円の中心で、異なる部位(踵、つま先、足裏、内足、外足、膝)でボールをリフティングし、1周すると得点が入る。制限時間内の合計得点を競う。1チーム5人が輪になり、5mの高さのカゴに、足、肩、頭も使って、ボールを入れ、総数を競う種目もある。



セパタクロー (発祥:タイ、マレーシア)

マレー語で「セパ」=「蹴る」、タイ語で「タクロー」=「ボール」を意味する。別名「足のバレーボール」「空中の格闘技」とも言われる。ネット(バドミントンの高さと同じ)を挟み、主に足、もも、頭を使って、3回以内に返球し得点を競う(一人で2回続けてタッチすることは可)。1セット21点、ラリーポイント制。2人制、3人制がある。



ボビナム (発祥:ベトナム、1938年)

中国拳法、レスリング、ボクシングなどの要素を取り入れ、独自に生み出した総合武術。フランス、アメリカといった諸外国に抑圧され続けた長い歴史の中で、ベトナム民族を「武術によって心身ともに励まし鍛える」ことを目的に生み出された。訓練は、手、肘、脚、膝を使った身体的な技と、剣、ナイフ、扇子、爪などの武器を使う技が存在する。



フロアボール (発祥:スウェーデン、1970年代)

1チーム6人で構成。穴の開いたプラスチック製ボールを、スティックを用いて運び、相手チームのゴールに入れて得点を競う。室内で行う氷の無いアイスホッケーに例えられる。盛んな地域は北欧の国々だが、東南アジアでは、シンガポールで人気がある。



テックボール (発祥:ハンガリー、2014年)

卓球×サッカー×バレーボールの混合競技!?使用するのは、サッカーボール。腕以外の部位を用いて、サービスで試合がスタート、その後最大3回までのボールタッチで(同じ身体の部位で2回連続でタッチしてはいけない)、若干の弧を描く台「テックボード」の相手側に返球し、得点を競う。1セット20点、ラリーポイント制。シングルス、ダブルスがある。チンロン、セパタクローといった足を使うスポーツが盛んな東南アジアでは、今後流行する可能性がありそう。



オブストラクスレース(障害物レース)

うんてい、つり輪、振り返った壁などの9つの障害物を乗り越えて、タイムを競う。日本のTBS番組『SASUKE』と言えば、イメージが湧く人が多いかもしれない。近年、世界中で若者の間で人気があり、この『SEAGames』で初採用された。2028年開催予定のロサンゼルスオリンピックで、近代五種(水泳、フェンシング、射撃、ランニング、馬術の5種目の合計ポイントで競う)の種目「馬術」を除外し、この「障害物レース」が採用されることが検討されている。



大会期間中、こんな一コマも!



体操競技で、金2つ銀2つのメダルを獲得したフィリピンの英雄カルロス選手(世界選手権2019、2021の金メダリスト)。高校2年生だった2016年に、日本へ体操留学。以後、日本人コーチと共に、日本を拠点に活動中。日本語が堪能で、突然の撮影依頼にも、とても礼儀正しく、対応をしてくれました!

- ◆他にも、
- ◇主に東南アジアを起源とする伝統武術
クンマエ(発祥:カンボジア)、カリ(フィリピン)、
ブンチャック・シラット(東南アジア諸国) など
- ◇中国発祥の伝統競技
ウシュー(中国)、シャンチー(中国、ベトナムで盛んな伝統将棋)、
ドラゴンボートレース(中国)
- ◇その他の競技
E-sports、ビリヤード、ジェットスキー、フィンスイミング
など、多様な競技が行われていました。